AMCoR
Asahikawa Medical University Repository http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/

旭川医科大学研究フォーラム (2015.2) 15,1:121-122.

本学教員執筆書籍の紹介　心理学のための英語論文の基本表現

高橋 雅治

旭川医科大学研究フォーラム 15　：121 ～ 122，2014

本学教員執筆書籍の紹介

高橋雅治、D. シュワーブ , B. シュワーブ著

心理学のための英語論文の基本表現

朝倉書店　2013 年 11 月 10 日出版　194 ページ　3,240 円

高　橋　雅　治

1．本書の特徴

本書は、心理学論文で使われる英語表現を集めた英語表現集である。執筆では、心理学関連分野で使われる英語表現を中心に収録することを心がけた。その結果、研究参加者の表現が 24 個、分散分析の表現が 16 個収録されるなど、心理学のみならず行動科学全般の執筆に役立つ表現集になった。

執筆の要は、出来る限り質の高い例文を収集することであった。試行錯誤の末、以下の方法を採用した。まず、私が収録すべき例文の内容を決め、それに基づいて、共著者のシュワーブ夫妻が一流誌の論文から質の高い例文を選び出す。次に、私がそれを日本語に直した後でシュワーブ夫妻が誤りをチェックし、さらに、私がそれらを原稿としてまとめるのである。これにより、質の高い例文を収録することができたと自負している。

本書を最初に構想したのは、30 年以上も前のことであった。当時院生であった私は英語で出版する必要に迫られて、論文英語の例文集を探していた。あちこちを探しまわった末、役に立ちそうな自然科学系の例文集をなんとか見つけることができた。だが、行動科学関係の例文集はひとつも見つからなかった。いつかこの分野で例文集を出版したい。それが、英作文の不得手な院生が当時抱いた夢であった。それから 10 年以上たってから、米国人の発達心理学者であるシュワーブ夫妻と 2 冊の本 [1)2)] を出版することになり、その過程で築いた夫妻との信頼関係が今回の出版につながった。

2．例文参照と剽窃

本書でも触れているように、第二言語教育の現場では、例文参照による執筆と剽窃の問題についてさまざまな議論が行われている [3)4)5)6)]。たとえば、ノン・ネイティブの研究者は、ネイティブの書いた論文を参考にしながら執筆することが多く、その結果、手本にした例文と似たような文章を書いてしまいがちであることが指摘されている [5)]。いわゆる「切り貼り著者（patchwriter）」の問題である。さらに、同様の議論において、「日本人は概して剽窃の問題に鈍感である」という主張も広く認識されている [3)6)]。中には、日本人の剽窃に対する認識の甘さを、個人の功績や責任が二の次に扱われるいわゆる「甘え」の構造 [7)] に帰属する研究者さえ見受けられる（Wheeler[6)] の評論を参照）。

執筆の初心者がこのような剽窃の問題を避けるためのひとつの方法は、少数の例文を手本にするのではなく、多数の例文に共通して含まれている文章パターンをあらかじめ身につけておき、執筆に際しては、それらを適切に運用することにより常に独自の文章を書くことである。そこで、本書では、多数の例文に共通する文章パターンを実際の例文とペアにして提示した。執筆の初心者は、それらを見較べて各文章パターンの使い方を体得することから始めて欲しい。

おわりに

本書では、英語表現を論文の各節ごとにまとめて示し、さらに、各節を執筆するためのポイントと APA スタイルの概要を加筆した。英語論文に初めて取り組む場合は、それらを参考にして研究のアウトラインを少しずつ作っておき、ついでに、それらを英語に訳しておくとよい。これにより、投稿原稿の主要な部分は完成したことになる。本書が、この分野の将来を担う若手研究者の一助になれば幸いである。

引用文献

1）D. シュワーブ，B. シュワーブ，高橋雅治．初めての心理学英語論文．北大路書房，1998.

2）D. シュワーブ，高橋雅治, B. シュワーブ, D.A. シュワーブ．心理学者のためのネットスキル・ガイドブック．北大路書房，2005.

3）Dryden, L. M. A distant mirror or through the looking glass? Plagiarism and intellectual property in Japanese education. In L. Buranen & A. M. Roy (Eds.), *Perspectives on plagiarism and intellectual property in a postmodern world*. Albany: State University of New York Press, 1999.

4）Howard, R. M. *Plagiarism: What should a teacher do?* Paper presented at the Confer. on Col. Compo. & Commu., Denver, CO, 2001.

5）Pecorari, D. Good and original: Plagiarism and patchwriting in academic second-language writing. *J of Sec Lan Writ, 12*, 317–345, 2003.

6）Wheeler, G. Plagiarism in the Japanese universities: Truly a cultural matter? *J of Sec Lan Writ, 18,* 17-29, 2009.

7）土居 健郎.「甘え」の構造．弘文堂 , 1971.